

川崎信用金庫理事長賞受賞作品

ぼくのいだいなおばあちゃん

東高津小学校 5年生 大井 翔平

ぼくは、おばあちゃんが、大好きです。なぜなら、とても優しいからです。ぼくとお兄ちゃんが遊びに行くと、前からおもちをほしておいて、それであげもちをあげてくれます。それは、三ツ星級のおいしさです。また、家にあったせっこうボードとかんたんなネットで、そくせきの卓球台を作って遊んでくれたりもします。おばあちゃんは、なかなかの強敵です。ぼくのお父さんは卓球部でしたが、そのころおばあちゃんには、かなわなかったようです。だから、そのおばあちゃんに勝ったときは、サッカーのカップ戦で優勝したときぐらいのうれしさでした。あと、たまにおばあちゃんちの屋上でキャンプをさせてくれます。そのとき、バーベキューをするのですが、おばあちゃんは、いすやつくえを用意してくれたり、やさいを切ってくれたり、いろいろなサポートをしてくれます。だから、何度も言ってしまいましたが、ぼくはこんなおばあちゃんが大好きです。

でも、けっこうお年寄りです。ぼくたち兄弟には、何も言いませんがお母さんによるとひざがいたいそうです。そういえば、ゆかには、座っていなくていすに座っています。ゆかから立ち上がるのがつらいのではないかと思います。また、階段をのぼりおりするときに、両手で、手すりをつかんでいます。ひざがいたくて足に力がはいらないから、その分を手でカバーしているのではないかと思います。

けれども、ひざがいたいのにもかかわらず、ぼくと本気で卓球をしてくれたり、バーベキューの準備をしてくれたりして、おばあちゃんは、とてもすごいと思います。まさに、グレートグランドマザーです。

しかも、おばあちゃんのうちは、きゅうな坂の上にあります。ぼくが遊びにいくと必ずジュースやおかしが用意してあります。しかし、それを買う道のりはとても長いです。ぼくが考えてみたところ四ヶ所のアップダウンがあって、きよりもそうとうあります。ぼくがふつうに歩いたら四十分かかると思います。でも、おばあちゃんはひざがいたいけど、それをふだんの生活でこなしています。本当にがまん強いと思います。

だけどぼくは、と中でおばあちゃんがたおれてしまわないか、とってもとても心配です。だから、今から、これがなんとかできないか考えていきます。

まず、おばあちゃんが長く大変な道のりを歩かないですむようにしたいです。おばあちゃん一人ぐらしで車を運転できないので自動運転の車で買い物に行けたらいいと思います。逆に、スーパーが家の前に来てくれるサービスができるといいなと思います。自動運転車に商品をたくさん乗せて、そのまま見て買えるサービスができたらいいなと思います。また、大きいドローンをお年寄りでも簡単に遠くく

そう作ができるようにして、買い物がスムーズにできるようなシステムを作れたらいいなと思います。

また、心配なことがもう一個ありまして、おばあちゃんちの近所では、あきす被害が多発しているそうです。ぼくたち家族は別のところに住んでいるので、おばあちゃんになにかあってもすぐに助けにいきません。なので、家のいろいろなところに防はんカメラやセンサーを設置して、危険をいち早くさっちして、ぼくたちのスマホ、そして警察や近所の方に知らせるようなネットワークがつくれたら最高だと思います。

さらに、人型のサポートA I が家にいてくれるともっと安心です。スーパーに行くのもつきあってくれれば、おばあちゃんが歩けるはんいで歩いて、疲れたときは、おんぶしてくれたり支えてくれたりすることができるA I がいれば、おばあちゃんの運動不足の解消にもなります。また、家の中で家事をしてくれたり、一人ぐらしで話し相手がいないからA I が話し相手になってくれれば、おばあちゃんもさみしくない生活をおくれます。そして、そのA I があきすやその他のはんざいからも守ってくれるようにすれば、おばあちゃんは、もっと安心して生活がおくれることでしょう。これらがぼくの解決方法です。

いままでぼくのうちの話ですが、この川崎市はぼくたち子供からお年寄りまでいろいろな年齢の人が住んでいます。きっとぼくのうちみたいな家族はいっぱいあるのではないかなと思います。だから、ぼくが大人になったらこれらの解決方法をつようして、みんなが笑顔になれて安心安全な川崎の町を作っていきたいです。